



掘りごたつのある和室や、薪ストーブのある土間、隠れ家風の小屋裏のオーディオルームなど、暮らしが楽しくなるアイデアがもりもり詰められた「風のくら」。オリジナルの建具には職人技が光る。裏山沿いに新たに作ったオープンデッキには耐久性の高い天然石のタイルを使用。デザイン性だけでなく、メンテナンスのことも考えて、いつまでも安心して快適に暮らせるように設計されている



元の家にあった通り土間にテラコッタタイルを張り詰めたスペースに、高い天井にかかる太い梁やアンティークガラスをはめこんだオリジナルの建具も印象に残る空間



土間スペースや小屋裏の隠れ家で「非日常を楽しむ」暮らしを提案

リノベによってデザインも性能も現代の暮らしにフィットさせる

ここ数年で「いかに自宅を快適に過ごすか」に関心を寄せる人は確実に増えている。便利な家電やグッズを揃えるのでもいいが、「自宅にいながら非日常を楽しむ」という方法もぜひ考えてみてほしい。

「風のくら」では、家の中と外をつなぐ場として「土間」の活用を提案。かつては日本のどの家にもあった造りを現代の暮らしに取り入れるべく、玄関ホール兼寛ぎのスペースとしてテラコッタタイル張りの空間を設けている。薪ストーブのある土間はおうちカフェやギヤラリー、創作スペースなど使い方は自由自在。人静かに、いは家族や友人とにぎやかに、過ごし方のバリエーションも無限大だ。

もう一つ、見てほしいのは併設の蔵の小屋裏にあるシアタールーム。太い梁も小屋組みも建てた時のままで、天井の低い静謐な空間はまさに大人の隠れ家。暮らしを豊かにする個性的なアイデアの数々に、「自分ならどんな非日常をつくるのか？」と空想の翼が広がること間違いなしだ。

値を感じても、不便であれば受け継ぐことに二の足を踏むのは当然だ。「古民家は寒い、耐震性能が心配、湿気が多そう、など」デメリットを気にする方もおられますが、どれも解消できる問題。サッシを樹脂製に交換して、最先端の断熱材を入れたら断熱性能は上がります。きちんと検査して補強すれば耐震性も確保できます。また、当社が内装仕上げや外壁に使う天然のサイイン漆喰は、臭いや湿気を吸収してくれるし、アルカリ成分が強いため苔も生えにくいので、快適さや美しさも保つことができます」と三上さん。デザインと性能の両面から快適な古民家ライフを実現できる理由を明かしてくれました。



吉木展示場 築90年の昭和初期の民家をリノベーションしたもう一つのモデル住宅は和モダンスタイル。薪ストーブのあるリビングや隠れ家コーナーなど見どころ満載だ。「和の家吉木」筑紫野市大字吉木344-1(見学は予約制)



古民家リノベに込められたライフスタイルを考えるヒント

都会の便利な生活は捨てがたいでも、植物を育て、レンガを積んだり、薪を割ったりしながら、自分の手で暮らしを形づくる実感を得的にも悪くない。緑に囲まれた「風のくら」には、これからのライフスタイルを考えるヒントが詰まっているように見える。「ウスランド社で家を建てるのは「ありきたり」の家では面白くない」とおっしゃる方は、古民家の雰囲気に合わせて収納家具や建具などもオリジナルで造作するほか、外構もトータルで提案できます。和モダンにリノベーションした「和の家吉木」にも、ぜひ足を運んでみて下さい。



風のくら

古民家再生 住宅展示場
〒818-0046 福岡県筑紫野市大字山口2122
TEL 092-555-5530 FAX 092-555-5531
https://www.kazekura.com